

ドイツにおける国際空港の定量比較

山田 徹雄

はじめに

ドイツにおいて『国際空港』(internationale Flughäfen) といふとき、公式には『ドイツ民間空港連盟』(Arbeitsgemeinschaft Deutscher Verkehrsflughäfen 以下、ADVと略記)の公式構成員空港をいう。したがって、ADVによって『国際空港』に認定されていない空港においても、「国際線」を運航させている空港も存在する。⁽¹⁾

ドイツの国際空港は、わが国における第一種空港と第二種空港をあわせてものと考えられる。本稿においては、ドイツの国際空港についてその輸送規模と資本関係を確定し、その性格付けを行う。

(一) 輸送実績比較

さしあたり、ドイツの空港が世界的視点においてどの程度の存在であるかを見る。年間の旅客数を「表1-1」から検討すると、フランクフルト・ライン／マイン空港が第八位にランクする他、ミュンヘン空港が三三位、デュッセルドルフ空港、ベルリン・テール空港が一〇〇位以内に入っている。

貨物取扱量を基準とする「表1-2」では、フランクフルト・ライン／マイン空港が七位、ケルン／ボン空港が三二位、ミュンヘン空港が八九位である。一〇〇位には入らないものの、フランクフルト・ハーン空港が一三八位にランクされる。

次にドイツ国内の空港が、ドイツ再統一以降、どのように変化を遂げたのかを検討する。

ドイツの代表的空港とされるフランクフルト・ライン／マイン

〔表1-1〕世界の空港におけるドイツの国際空港（旅客数基準）
2005年

世界の空港における順位	都 市	空 港
8	Frankfurt/Main	Rhein/Main
33	München	Franz-Josef-Straus
84	Düsseldorf	Lohausen
97	Berlin	Tegel
110	Hamburg	Fuhlsbüttel
121	Köln/Bonn	Konrad Adenauer
123	Stuttgart	Echterdingen
176	Hannover	Langenhagen
191	Berlin	Schönefeld
234	Nürnberg	
276	Hahn	
324	Leipzig/Halle	
348	Dresden	
350	Bremen	
352	Dortmund	
381	Münster/Osnabrück	
565	Friedrichshafen	
583	Berlin	Tempelhof

〔典拠〕 ADV, *Fluggastaufkommen der Weltflughäfen im Jahre 2005* und ACI, *Worldwide Airport Traffic Report 2005*

〔表1-2〕世界の空港におけるドイツの空港（貨物取り扱い重量基準）
2005年

世界の空港における順位	都 市	空 港
7	Frankfurt/Main	Rhein/Main
32	Köln/Bonn	Konrad Adenauer
89	München	Franz-Josef-Straus
138	Hahn	
179	Düsseldorf	Lohausen
233	Hamburg	Fuhlsbüttel
248	Stuttgart	Echterdingen
284	Berlin	Tegel
297	Hannover	Langenhagen
324	Berlin	Schönefeld
333	Leipzig/Halle	
344	Nürnberg	

〔典拠〕 ADV, *Cargoaufkommen der Weltflughäfen im Jahre 2005* und ACI, *Worldwide Airport Traffic Report 2005*

空港を基準として、国際空港間の序数的意義を検討する。ドイツ再統一以降、空港間の順位に変動が生じてきた。この間ミュンヘン空港がデュッセルドルフ空港に代わってフランクフルト空港に次ぐ地位を確保し、かつルフトハンザ・ドイツ航空の第二のハブとしてその地位を確定してきた。

ベルリンの三空港においては、「ベルリン・ブランデンブルク国際空港」構想によって、テーゲルからシェーネフェルトへの交替が開始したことが読み取れる。

ケルン／ボン空港が民間への転用によって、また首都移転に伴う政策的投資によって、その比重を高めつつある。

また、LCCによる戦略的空港として、フランクフルト・ハーンおよびドルトムントが国際空港としての地位を確保しつつある。

航空貨物の輸送においては、長距離便が一般的であることから、フランクフルト・ライン／マインの優位性は揺るがない。フランクフルト空港以外では、旅客輸送における順位とは異なった特徴が見られる。ケルン／ボン空港、ハーン空港は航空貨物においては重要な拠点となっていることが確認できるであろう。

二〇〇六年において、ドイツの国際空港に離着陸した旅客は全体で、およそ千二百万人強であった。このうち、国内線利用者は一・九％、ヨーロッパ線利用者は五二・九％、また非ヨーロッパ線利用者は一八・八％である。ヨーロッパ線の旅客内訳は、EU内が一六・八％と圧倒的に多く、またシェンゲン協定国内の移

動はヨーロッパ線の五七・七％を占めていた。

以下、「表3-1」～「表3-3」において、空港の相対的優位性を定量的に確定する。

〔表2〕と〔表3-1〕を比較すると、フランクフルト空港に対して他の空港の劣位という印象が一変する。ミュンヘン空港がフランクフルトを上回る旅客を吸引しているのみならず、他の空港においてもフランクフルト空港との格差が大幅に縮小する。ミュンヘン、ハンブルク、ニュルンベルク、シュトゥットガルト、ドレスデン、ライプツィヒなどが航空輸送においても地域の中心的交通拠点であることが明白である。また、ベルリンの三空港を合計すると、相対比率は一一・三・三となり、フランクフルトを凌駕する。フランクフルト・ハーンのみ無視し得る値を示しているのは、アクセスの問題があるであろう。

EU線においても、フランクフルト空港と他の空港との格差は比較的小さい。この中で、デュッセルドルフ空港の順位が国内線よりも上位にあるのは、地理的状況を反映しているものと思われる。ハーンは国内線において最下位であったが、EU線においては八位に位置し、ライン／マイン空港を十分に補完する役割を果たしている。

非ヨーロッパ線においては、フランクフルト・ライン／マイン空港の圧倒的優位性が確認された。これを補う位置にあるのがミュンヘン空港である。〔表3〕において、フランクフルト空港がド

〔表2〕ドイツの国際空港における旅客数の相対比較
各年度Frankfurt Rhein/Main=100

↓ 2006年における順位／年度→	1991	1996	2001	2006
1 Frankfurt Rhein/Main	100.0	100.0	100.0	100.0
2 München	38.8	40.5	48.6	58.9
3 Düsseldorf	40.7	37.5	31.7	31.5
4 Hamburg	23.3	21.3	19.4	22.6
5 Berlin Tegel	24.5	21.7	20.4	22.4
6 Stuttgart	14.7	16.6	15.6	19.1
7 Köln/Bonn	11.2	14.2	11.7	18.7
8 Berlin Schönefeld	3.9	4.6	3.8	11.4
9 Hannover	10.3	11.3	10.5	10.7
10 Nürnberg	5.1	5.6	6.5	7.4
11 Frankfurt Hahn				6.7
12 Leipzig/Halle	0.2	5.4	4.3	4.1
13 Dortmund			2.2	3.8
14 Dresden	2.1	4.2	3.3	3.4
15 Bremen	3.7	4.0	3.7	3.2
16 Münster/Osnabrück	0.9	2.5	3.2	2.9
17 Berlin Tempelhof	0.5	1.8	1.6	1.2
18 Saarbrücken	0.9	0.9	0.9	0.7
19 Erfurt			0.9	0.6

〔注〕 出発旅客数+到着旅客数を基本データとし、トランジットは含まない。
〔典拠〕 ADV, Verkehrsergebnisse der internationalen Flughäfen im Jahre 1991,
1996, 2001 und 2006 を基に算出。

〔表3〕ドイツの国際空港における航空貨物重量の相対比較
各年度Frankfurt Rhein/Main=100

↓ 2006年における順位／年度→	1991	1996	2001	2006
1 Frankfurt Rhein/Main	100.0	100.0	100.0	100.0
2 Köln/Bonn	17.4	23.5	30.0	33.7
3 München	4.9	5.6	8.3	11.0
4 Frankfurt Hahn				5.5
5 Düsseldorf	3.9	4.2	3.4	2.9
6 Hamburg	3.5	2.6	1.7	1.5
7 Leipzig/Halle	0.1	0.1	0.4	1.2
8 Stuttgart	1.3	1.3	1.0	0.9
9 Berlin Tegel	1.2	1.2	1.8	0.6
10 Nürnberg	0.8	2.8	0.8	0.5
11 Hannover	1.2	0.8	0.3	0.2
12 Erfurt			0.0	0.1
13 Berlin Schönefeld	0.5	0.9	0.6	0.1
14 Bremen	0.2	0.1	0.1	0.0

以下、省略

〔注〕 到着航空貨物重量+発送航空貨物重量を基に算出。
トランジットは除く。また、郵便は含まない。
〔典拠〕 ADV, Verkehrsergebnisse der internationalen Flughäfen im Jahre 1991,
1996, 2001 und 2006 を基に算出。

〔表 3 - 1〕 国内線旅客数の比較 (2006年)

Frankfurt Rhein/Main=100

↓順位	相対比率
1 München	149.7
2 Frankfurt Rhein/Main	100.0
3 Berlin Tegel	89.2
4 Hamburg	76.3
5 Düsseldorf	61.2
6 Köln/Bonn	54.8
7 Stuttgart	48.7
8 Nürnberg	24.9
9 Berlin Schönefeld	22.0
10 Dresden	19.2
11 Hannover	17.6
12 Leipzig/Halle	13.3
13 Bremen	13.1
14 Münster/Osnabrück	7.1
15 Dortmund	2.5
16 Berlin Tempelhof	1.9
17 Erfurt	1.1
18 Saarbrücken	1.1
19 Frankfurt Hahn	0.0

〔典拠〕 ADV, ADV-Monatsstatistik, Dezember 2006

〔表 3 - 2〕 E U線旅客数の比較 (2006年)

Frankfurt Rhein/Main=100

↓順位	相対比率
1 Frankfurt Rhein/Main	100.0
2 München	77.7
3 Düsseldorf	41.9
4 Berlin Tegel	26.9
5 Köln/Bonn	26.2
6 Hamburg	25.7
7 Stuttgart	25.7
8 Frankfurt Hahn	24.4
9 Berlin Schönefeld	22.8
10 Hannover	13.8
11 Nürnberg	10.8
12 Dortmund	8.6
13 Bremen	3.6
14 Leipzig/Halle	2.4
15 Münster/Osnabrück	2.2
16 Berlin Tempelhof	1.2
17 Dresden	0.8
18 Saarbrücken	0.4
19 Erfurt	0.1

〔典拠〕 ADV, ADV-Monatsstatistik, Dezember 2006

〔表 3 - 3〕 非ヨーロッパ線旅客数の比較 (2006年)
Frankfurt Rhein/Main=100

↓順位	相対比率
1 Frankfurt Rhein/Main	100.0
2 München	21.8
3 Düsseldorf	8.1
4 Stuttgart	2.5
5 Hamburg	1.8
6 Nürnberg	1.6
7 Berlin Tegel	1.4
8 Berlin Schönefeld	1.2
9 Köln/Bonn	1.0
10 Hannover	0.7
11 Leipzig/Halle	0.6
12 Dresden	0.0
13 Erfurt	0.0
14 Saarbrücken	0.0
15 Münster/Osnabrück	0.0
16 Frankfurt Hahn	0.0
17 Berlin Tempelhof	0.0

Bremen, Dortmund は、非ヨーロッパ線の運行はなし。

〔典拠〕 ADV, ADV-Monatsstatistik, Dezember 2006

ドイツにおける主要空港とされるのは、インターコンチネンタル路線の運行に帰することができる。

(2) 資本関係

二〇〇六年一月現在、ドイツにおける国際空港の資本関係を検討する。⁽⁸⁾

「フランクフルト・ライン/マイン空港、ハーン空港、ハノーファー空港」

フランクフルト・ライン/マイン空港の運営会社はフラポルト株式会社 (Fraport AG) であり、同社への出資状況は

Land Hessen (31.62%)

Stadt Frankfurt a.M. (20.19%)

Deutsche Lufthansa AG (9.96%)

Julius Bär Gruppe (5.10%)

Streubesitz (24.55%)

Capital Group (4.70%)

Artisan Partners (3.88%)

となっている。ヘッセン州が最大の出資者であり、フランクフルト市がこれに次ぐ。この両者で過半数の参加持分を有する。この点、連邦政府が出資するケルン/ボン空港、ミュンヘン空港と大

きな違いである。

フラポルト株式会社は、フランクフルト・ハーン空港への出資者でもある。フランクフルト・ハーン空港有限公司 (Flughafen Frankfurt-Hahn GmbH) の持分は

Land Rheinland-Pfalz (17.5%)

Land Hessen (17.5%)

Fraport AG (65.0%)

によって構成され、フラポルト社による過半数の持分支配の他、ラインランド・プファルツ州、ヘッセン州による等分参加がなされている。

フラポルト社による出資はハノーファー空港にもおよんでいる。ハノーファー・ランゲンハーゲン空港有限公司 (Flughafen Hannover-Langenhagen GmbH) の持分構成は

Hannoversche Beteiligungs GmbH (35.0%)

Stadt Hannover (35.0%)

Fraport AG und NordLB (30.0%)

であり、さらにハノーファー参加有限公司 (Hannoversche Beteiligungs GmbH) 唯一の出資者はニーダーザクセン州である。

〔ベルリン3空港、ケルン／ボン空港、ミュンヘン空港〕

ベルリンの3空港を運営するベルリン・シェーネフェルト空港有限公司 (Flughafen Berlin-Schönefeld GmbH) /ベルリン空港有

限会社 (Berliner Flughafen GmbH) には

連邦政府が関与している。同社の資本構成は

Land Berlin (37.0%)

Land Brandenburg (37.0%)

BR Deutschland (26.0%)

であり、連邦政府の出資比率は、ベルリン州、ブランデンブルク州に及ばない。

これと同様の資本関係はミュンヘン空港有限公司 (Flughafen München GmbH) にも見られる。同社の資本は

BR Deutschland (26.0%)

Freistaat Bayern (51.0%)

Stadt München (23.0%)

によって構成されている。

これに対して、ケルン／ボン空港有限公司 (Flughafen Köln/Bonn) においては、連邦政府の出資比率が高いが、州政府および地方自治体の出資を合計した値にはるかに及ばない。すなわち、同社は

BR Deutschland (30.9%)

Land Nordrhein-Westfalen (30.9%)

Stadt Köln (31.1%)

Stadt Bonn (6.1%)

Rhein-Sieg-Kreis (0.6%)

Rheinisch Bergischer Kreis (0.4%)
から構成され、とりわけケルン市が最大の出資者である。

〔ドレスデン空港、ライプツィヒ／ハッレ空港〕

ドレスデン空港を運営するドレスデン空港有限会社 (Flughafen Dresden GmbH) の出資は

Mitteldeutsche Flughafens AG (94.0%)

Freistaat Sachsen (4.3%)

Landkreis Meißen (0.8%)

Landkreis Kamenz (0.8%)

であり、一見すると民間資本主導の印象を与える。しかし、中部ドイツ空港株式会社 (Mitteldeutsche Flughafen AG) の資本構成が

Freistaat Sachsen (67.1%)

Land Sachsen-Anhalt (13.6%)

Stadt Leipzig (8.0%)

Stadt Dresden (6.2%)

Stadt Halle (5.2%)

であることから、ザクセン州が主導的であるといえる。同様にザクセン州の関与が大である空港がライプツィヒ／ハッレ空港有限会社 (Flughafen Leipzig/Halle GmbH) である。同社は

Mitteldeutsche Flughafens AG (94.0%)

Freistaat Sachsen (4.6%)

Lkr. Delitzsch (0.5%)

Lkr. Leipziger Land (0.5%)

Stadt Schkeuditz (0.4%)

から構成され、ドレスデン空港の資本関係と相似的である。

〔デュッセルドルフ空港、ハンブルク空港〕

デュッセルドルフ空港有限会社 (Flughafen Düsseldorf GmbH)

とハンブルク空港有限会社 (Flughafen Hamburg GmbH) は、民間

会社が関与する空港運営会社である。前者の資本関係は、

Airport Partners GmbH (50.0%)

Stadtwerke Düsseldorf, Gesellschaft für Beteiligungen mbH (50.0%)

であるが、過半数の持分を有するエアポート・パートナーズ有限会社の出資者は、

Hochtief Airport GmbH/Hochtief Capital GmbH und Aer

Rianta Plc.

である。一方、ハンブルクについては、

Airport Partners GmbH (49.0%)

Freie und Hansestadt Hamburg (51.0%)

であり、ドイツの空港においては、民間資本が最も関与する空港といえる。

〔エアフルト空港、ニュルンベルク空港、シュトゥットガルト空港〕

上記3空港は、州政府による関与が大きい。エアフルト空港有
限会社 (Flughafen Erfurt GmbH) の資本構成は

Land Thüringen (95.0%)

Stadt Erfurt (5.0%)

であり、州政府が大半の持分を所有し、エアフルト市も参加する。
ニュルンベルク空港有限会社 (Flughafen Nürnberg GmbH) にお
いても、

Freistaat Bayern (50.0%)

Stadt Nürnberg (50.0%)

であり、バイエルン州とニュルンベルク市が等分の資本参加をして
いる。また、シュトゥットガルト空港有限会社 (Flughafen Stuttgart
GmbH) の資本関係は、ニュルンベルク空港と相似のである。すな
わち、

Land Baden-Württemberg (50.0%)

Stadt Stuttgart (50.0%)

である。

〔ブレーメン空港、ドルトムント空港〕

都市による空港への積極的な資本参加が見られるのは、ブレー
メン空港およびドルトムント空港である。ブレーメン空港有限会
社 (Flughafen Bremen GmbH) においては、唯一の出資はブレー

メン市である。

Hansestadt Bremen (100.0%)

ドルトムント空港有限会社 (Flughafen Dortmund GmbH) の出
資者は

Dortmunder Stadtwerke AG (74.0%)

Stadt Dortmund (26.0%)

であり、事実上ドルトムント市が100%所有している。

〔ミュンスター／オズナブリュック空港、ザールブリュッケン空港〕

ミュンスター／オズナブリュック空港有限会社 (Flughafen
Münster/Osnabrück GmbH) の資本関係は複雑である。

Stadtwerke Münster GmbH (35.2%)

Kreis Steinfurt (30.4%)

Stadtwerke Osnabrück GmbH (17.3%)

Verkehrsgesellschaft Lkr. Osnabrück (7.2%)

Verkehrsgesellschaft Stadt Greven (5.9%)

Sonstige (4.0%)

であり、なお他項目を細分化すると

Stadtwerke Münster GmbH (35.06%)

Beteiligungsgesellschaft des Kreises Steinfurt mbH (30.28%)

Stadtwerke Osnabrück AG (17.20%)

BEVOS Beteiligungs- u. Vermögensverwaltungs mbH

Landkreis Osnabrück (7.12%)
 Grevener Verkehrs GmbH (5.89%)
 Kreis Warendorf (2.44%)
 Kreis Borken (0.45%)
 Kreis Coesfeld (0.45%)
 Landkreis Gratschaft Bentheim (0.45%)
 Landkreis Emsland (0.45%)
 IHK Nord Westfalen (0.07%)
 IHK Osnabrück Emsland (0.03%)
 Handwerkskammer Münster (0.03%)
 Handwerkskammer Osnabrück-Emsland (0.03%)
 Kamer van Koophandel Veluwe en Twente (0.03%)
 とおり、国境を越えて地域の自治体、工業会議所などが広く出資していることがわかる。
 ザールブリュッケン空港経営有限公司 (Flughafen Saarbrücken Betriebsgesellschaft mbH) の資本構成は
 Flughafen Saarbrücken Besitzgesellschaft mbH (99.0%)
 Stadt Saarbrücken (1.0%)
 である。資本参加九九%のザールブリュッケン空港所有有限公司の構成は
 Verkehrsholding Saarland GmbH (99.9%)
 Verkehrsholding Saarland GmbH (99.9%)
 となっている。

小括

ドイツの国際空港において、フランクフルト・ライン／マイン空港が輸送実績において傑出しているのは、大陸間輸送による半独占的地位によるものであり、ヨーロッパ線および国内線においては、地域の中心都市を拠点とする空港が多極的、分散的にその役割を果たしている。連邦政府が資本参加する空港は、ミュンヘン、ケルン／ボン、ベルリンに限られ、むしろ州政府が関与すると同時に都市、郡が一定の範囲で参加するケースが一般的である。

注

- (1) 例えば、ウィットツェ空港においてはICCによる国際線が運行されている。(拙稿「イージージェットとドイツ航空市場」跡見学園女子大学『人文学フォーラム』第四号)
- (2) 拙稿「ミュンヘン・フランクフルト・ヨゼフ・シエトラウス空港」『跡見学園女子大学文学部紀要』第三七号
- (3) 拙稿「ケルン／ボン『コンラート・アテナウワー空港』」『跡見学園女子大学文学部紀要』第三九号
- (4) 拙稿「もうひとつのフランクフルト空港」『立教経済学』第五八巻四号
- (5) 拙稿「もうひとつのフランクフルト空港」『立教経済学』第五八巻四号
- (6) ADV, ADV-Monatsstatistik, Dezember 2006より算出。
- (7) 拙稿「もうひとつのフランクフルト空港」『立教経済学』第五八巻四号
- (8) 依拠する資料はADV, Gesellschafter und Beteiligungsverhältnisse - internationale Verkehrsflughäfen による。